

3 身近な自然

3-3 漂着物調べ

学習のねらい

漂着物は何を由来としているのか、また、どこから来たのかを調べ、他の生物に及ぼす影響について知る。また、漂着物の問題は、世界的な視点を持つ必要があることを理解する。

プログラムの概要《学習形式：調査》

海岸や川原の漂着物を調べ(ビーチコーミングなど参考を参照) 漂着物の実態を知る。また、漂着物が生き物たちに及ぼす影響を知る。

学習場所	海岸、川原、教室(会議室)
所要時間	2時間+半日(調査)
対象人数	10人~40人程度
対象年齢	小学校中学年以上
準備するもの	筆記用具、スケッチ用紙、火バサミ、軍手、ゴム手袋
キーワード	自然環境、ごみ問題
関連教科等	社会科、総合

学習の進め方

1. 準備

指導者は「漂着物調べ」の候補となる海岸や川原へ行き、事前にフィールドの様子や安全を確認する。

2. 導入

海岸や川原において「漂着物調べ」を行なう旨を学習者に伝え、どのような物が漂着物となっているか、予想をたてる。

調べる範囲の確認や、水の中に入らない、漂着物を素手でつかまないなどの注意を徹底しておく。

3. 調査

海岸や川原における漂着物調べを行ない、スケッチ用紙に記録する。

4. 発表準備

教室(会議室等)に戻り、「漂着物調べ」の結果をグループごとに整理し、発表する内容をまとめる。

漂着物は「自然の物」と「人工の物」のどちらが多いかを考える。(黒板等を書いてある漂着物を「自然の物」「人工の物」別に指導者が色分けし、学習者に共通点を気づかせても良い。)

5. 発表

調べた結果を発表し、意見・感想を話し合う。

6. 考察・まとめ

発表した内容を全体で話し合い、以下の点に留意しながらまとめを行なう。

- それぞれの漂着物は「何が由来」となり「どこから来たものか」を考える。
- 中の物がなくなっていたり、壊れている漂着物やごみなどが、鳥などの生き物に与える影響を考えるとともに、指導者がパネル等で影響を受けた生き物を紹介する。
- 海や川に捨てた「ごみ」が海流で運ばれ、他の国に及ぶことを説明する。国境を越え、地球規模の問題であることに触れる。

発展

東京湾側と相模湾側、平作川と野比川など、他の地域の漂着物についての調べ学習を行い、比較する。

参考

ビーチコーミング

漂着物探し。砂浜をコム(Comb=くし)でとくようにして、漂着物をくまなく探すところから名付けられました。

漂着物の分類

表 漂着物の分類例

自然の物	人工の物
貝殻、海藻、流木、漂着動物、骨、植物 など	ガラスびん、ペットボトル、釣具、ビニール、布、発泡スチロール類、金属 など

漂着物の内訳

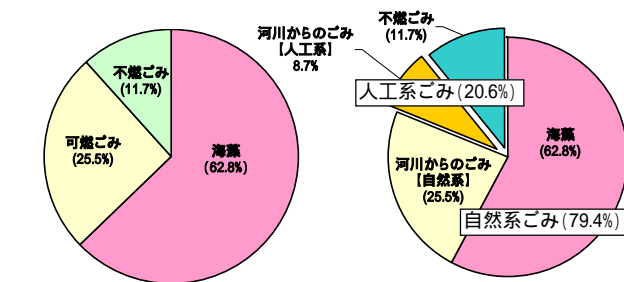


図 海岸ごみの内訳(平成5年度~15年度の平均値)

((財)かながわ海岸美化財団HPより)



海岸のごみの例((財)かながわ海岸美化財団HPより)

久里浜海岸での漂着物



海岸全景



漂着物



- ・漂着物学会HP
<http://www.drift-japan.net/modules/myalbum/index.php>
- ・かながわ海岸美化財団HP
<http://bikazaidan.main.jp/>